

【申請に至った背景とねらい】

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）では、子供たちに育むべき資質・能力として、“一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが必要”と謳っています。

また、東京都教育ビジョン（第5次）には、自ら未来を切り拓く力の育成の具体的な方針として「4 主体的に社会の形成に参画する態度を育む教育」、杉並区教育ビジョン2022には「学び合い、支え合う教育を通して、社会を創り、担う当事者となること」が求められています。

これらの指針には「主体的・対話的で深い学び」を通して生徒の育成を目指す方向性が示されており、本校においても積極的に推進していく必要があると考えています。

これまで本校では、総合的な学習の時間を中心に、豊かな自然環境を生かした環境教育を推進し、杉並区環境サミットへの参加を通して、生徒の意識向上を図ってきました。また、環境サミットに関連し、国立環境研究所、杉並環境ネットワークの協力を得て、外部の専門家による出前授業、講演会を実施しています。昨年度の教育を振り返り、これら専門家による正しい知識のインプットは、生徒の学習意欲をかき立てると同時に、教職員の知的好奇心にもプラスに作用している様子が伺えました。

そのため、今年度は専門的知見を有する外部人材の登用を積極的に行う方針を定めました。一方で、総合的な学習の時間では、環境教育の他に2年生の職場体験、3年生の進路等に関わるキャリア教育など、今後も欠かすことのできないものが多く、さらに外部人材を活用した内容を加えると時数の不足が生じてしまいます。

また、現在の「主体的・対話的で深い学び」へのアプローチは各教科の裁量で行う部分が大きく、学校全体の取組にはなり得ていません。さらには、共通の内容を取り扱えず、教科を超えた教員同士の横の広がりが展開しづらいという欠点があります。

そこで、本校のカリキュラム全体を見通した際に、「総合的な学習の時間」の充実がその端緒となると考えました。総合的な学習の時間であれば、学校全体のテーマとして生徒・教職員が取組内容を共有でき、そこから各教科との関連をもたせることが可能です。

その際に課題となるのが授業時数でした。これらの状況を踏まえ、生徒の自発的な学習意欲・態度を育み、教職員の指導観の変換を進める観点から、今回、各教科の担当教員で調査を行い、必要な学習内容の指導に支障のない範囲で時間を捻出し、総合的な学習の時間を十分に確保するために、授業時数特例校の申請に至りました。

総合的な学習の時間について見直し、全校で一貫したテーマを設定して系統的に取り組むことで、持続可能な社会の担い手となるべく、平和を追い求める姿勢と環境、防災、国際理解といった平和を築くための要素を学び、複雑で混沌とした状況の理解と改善策を見いだすために粘り強く取り組む態度や当事者意識を生徒・教職員が一丸となって獲得することを目指します。また、今後、生徒の学習成果や教職員の意識向上をもとにカリキュラムマネジメントを進め、総合的な学習の時間で獲得した経験を踏まえた教科等横断的な学習を推進し、学習を深化させていきたいと考えています。そして、具体的な行動を起こせる生徒、学び続ける教職員の育成とともに、学校を支えてくださる地域の方々にもご協力を仰ぎながら、平和な松ノ木地域、平和な日本、平和な世界を目指していきたいと考えています。